

第122期 中間報告書

自 2021年4月1日 至 2021年9月30日

FUJITSU

富士通株式会社

株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第122期中間期（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々および生活への影響を受けられた全てのみなさまに心よりお見舞い申し上げます。また、医療関係者の方々をはじめ、社会生活の維持等にご尽力いただいている方々に、心から敬意を表し、感謝申し上げます。



▶ 富士通の経営方針

当社は「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」という「パーパス（存在意義）」のもと、2030年の社会を想定し、社会課題を起点として7つのKey Focus Areas（重点注力分野）を、2021年4月に定め、取り組みを開始してきました。

そして、パーパス実現のための取り組みをより具体的な活動とするため、2021年10月には、新たな事業ブランド「Fujitsu Uvance（フジツウ ユーバンス）」を策定しました。今後はこの「Fujitsu Uvance」のもとで、Key Focus Areas（重点注力分野）を展開し、サステナブルな世界の実現に向け、社会課題の解決にフォーカスしたビジネスを強力に推進していきます。詳細につきましては、P3「TOPIC」をご参照ください。

▶ 2021年度中間期の業績

当中間期の売上収益につきましては、前年に実施した北米や欧州での事業再編および国内の携帯電話販売代理店事業の譲渡、ならびに前年のテレワーク対応需要の反動による減収影響がありましたが、テクノロジーソリューションは全てのサブセグメントで増収となったことに加え、デバイスソリューションも半導体需要の高まりにより、電子部品の売上が好調に推移し、前年同期から311億円の増収となりました。

営業利益につきましても、成長投資を積極的に拡大したことに加え、部材供給遅延の影響はありましたが、テクノロジーソリューションおよびデバイスソリューションにおける増収による利益の増加や、テクノロジーソリューションにおける採算性の改善、デバイスソリューションにおける電子部品の需要増加に伴う操業改善により、利益率が改善しました。また、これらに加え、事業譲渡に関する利益の計上やビジネスモデル変革費用の負担減少の影響もあり、全体としては増益となりました。当中間期の業績の詳細につきましては、P2「2021年度中間期の連結決算概要および2021年度の業績見通し」をご参照ください。

▶ 株主還元

中間配当につきましては、計画通り前期中間配当から10円増配し、1株当たり110円といたします。また、今年4月に設定した今年度内を取得期間とする500億円の自己株式の取得枠に基づき、当中間期までに約200億円の自己株式取得を実施しています。今後の株主還元につきましても、キャピタルアロケーションポリシーのもと、安定配当に加え、資本効率も意識した自己株式の取得を積極的に行い、総還元額を拡大していきます。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともご支援賜りたく、何卒お願い申し上げます。

代表取締役社長

時田 隆仁